

9 都市という文明の本質とその矛盾

2003/7/19

- 0 都市の原点——創造、運営、破滅、再建——バベルの塔、ノアの洪水、トロイ
都市は自然と時間のなかで常に劣化する。それを維持するのは人間。ときに、人間は自ら築いた都市を自ら破壊する。再建の意思を失ったときに都市は遺跡になる。
- 1 都市の本質 地理的・制度的定義（人口規模、密度、産業構造）などを超えて
- 1) 吸引力・磁力——魅力、吸引力（強制的、任意的）、情報力
 - 2) 異質の交流・共存——多様性への要求、同質の限界、ルール、住み分け
 - 3) 開放性と混入性——広域交流、国際性、必要でないもの危険なものも混入
 - 4) 集積性・累積性——集積の利益
 - 5) 創造性・情報発信性——先端情報、情報の交流、情報の蓄積、創造機関
 - 6) 変動性——流入・交流・創造による価値感変動、新規要件の追加
 - 7) シンボル性——魅力、象徴——吸引力
 - 8) 依存性・人工環境性——自足自給の停止、食料の移入、共同施設
 - 9) 破滅性——攻撃目標、累積の結末
- 2 ムラからマチへ
- 1) ムラ——自給自足 同質 閉鎖 共助 自前 可視性 上下関係
 - 2) マチ——他者依存 異質 開放 社会保障 都市装置 非可視性 対等関係
 - ・ ムラ 共同体の自立 個人の埋没 慣行的シクミ
 - ・ マチ 個人の自立 共同意識の希薄化 人為的シクミと確認
- 3 都市の矛盾、マチの矛盾——矛盾拡大の方向
- 1) 個別利益 * 全体利益 自己主張の容認と共同生活の軽視
 - 2) 経済的価値 * 文化・環境価値
 - 3) 人間の欲望充足 * 環境の限界
 - 4) 人工物（自然の変造） * 自然
 - 5) 依存性の増大——都市装置のブラックボックス化
 - 6) 好ましくない異質物の流入、異質社会間の衝突——逆選択的な人物・物資の流入
 - 7) 集積の利益——複雑過密化過大化——災害危険、攻撃目標の意味増大
 - 8) 便益性の自己矛盾——ex)クルマ社会の矛盾
- 9) 伝統的共同社会の崩壊——個人の孤独化
- 4 矛盾は解消できるか 矛盾は拡大・増加——解決できなければ都市文明は崩壊
- 1) 自由放任論（政策無用論） 見えざる神の手 弱肉強食
 - 2) 問題点に個別に対応（個別対応型）——旧来の都市運営
 - 3) 都市をなくして農村にもどす（農村還元論）
 - 4) 都市以外の選択の可能性はあるか（都市解体論） 草原の都市論
 - 5) 都市の利点を生かしながら矛盾を抑える方法を探る 都市政策論